

第1回川口市立グリーンセンター活性化基本計画検討委員会資料

令和元年7月31日

川口市
(一社)日本公園緑地協会

1. 活性化事業の目的と概要

-1. 事業の目的

開園から 50 余年が経過し、市民の憩いの場として親しまれてきた川口市立グリーンセンターは、全国で5本の指に入る植物園（※業態別集客ランキング『レジャーランド&レクパーク総覧 2018』総合ユニコム）として多くの来園者が訪れる川口市の主要な施設である。

一方で、施設の老朽化や園内の地盤沈下等の課題も顕在化、近年の利用者層の変化やニーズの多様化、市を取り巻く公園環境の変化等、グリーンセンターをめぐる環境も大きく変化している。

本計画は、中核市への移行（平成 30 年 4 月 1 日）や、開園 50 周年（平成 29 年 11 月）を機として、園全体を見直し、コンセプトや役割を明確化し、憩いの場やレクリエーション施設の充実と、植物に接する場や植物に興味をもてる機会の提供等により、次の 50 年に向けたグリーンセンターの活性化事業の推進を図るため、その基本となる計画の策定を目的とする。

-2. 事業の概要

①事業範囲

第 1・2・3 駐車場、わんぱく広場、流水プール場（アイススケート場）を含む全園 約 15.85ha

②事業概要

- 基本コンセプトの明確化（目指すべき改修の方向、ビジョン、ターゲットの設定 等）
- 改修方針の設定（既存施設の解体・改修・機能更新等の判定、新規導入機能・施設の設定、展示植物の再検証と植栽計画、設備インフラの改修、利用者サービス施設の改善 等）
- 管理運営手法の再構築（公民連携、夜間営業、料金体系、広報宣伝手法、その他運営コンテンツの検討と構築）
- 事業規模及び事業スケジュールの検討・設定

2. 計画地の現状と課題

-1. 立地条件・管理状況から見た現状と課題

①立地条件

- 埼玉高速鉄道での都心からのアクセス良い。新井宿駅から正門までの距離感あり（東門で約 10 分）。
- バスでの来園は川口駅等からは約 25 分、運行状況により時間を要する。
- 自家用車の来園は川口中央 IC から約 5 分のため、県内外からのアクセスは良好。

②管理状況

- グリーンセンター周辺の緑化産業施設との機能連携が不足。
- 開園以来大幅な施設更新がなく、安全管理、バリアフリー化、インフラ設備等の施設改修が急務。
- 管理面では他公園の直営管理と同様に、人員不足、技術・知識の継承等が困難。
- 現状では、来園者へのサービス向上、経営的課題等の打開策が見いだせない。

-2. 利用実態から見た現状と課題

- 入園者数は平成 19 年比較で約 10% 減、券種別では「こども・学生」の減少比率が高い。
- アイススケート場はこの 10 年ほぼ横ばい、流水プール場は平成 19 年比較で約 30% 減。
- 利用実態はわんぱく広場の利用が多く、「レジャー」「遊び」の来園目的が高い。
- アンケートでは、現状に満足しているため、より魅力的な施設への期待感が低い可能性あり。
- グリーンセンターの周辺地域は川口市都市計画基本方針で「緑化産業地域」と位置付けられ、イイナパーク川口等の緑化関連施設との連携強化が期待されている。
- 過去 10 年イベントの実施回数状況は現職員の努力により増加。イベント入場者比率の減少が低く（開催数の増加もあるが）、イベントの企画内容によっては潜在的入園者増の可能性がある。

-3. 公園・植物園に求められる社会的要請

①公園

- 地域の人たちのコミュニティの場としての役割・機能を公園が担うことが求められる。
- 屋外で自然に親しみ、身体を自由に動かす子どもの遊び場が公園に期待される。
- 健康運動や生涯学習、文化活動など、高齢者の生きがいづくりの場としての役割が求められる。
- 貴重な自然環境を保全創出、都市における野生生物の多様性を継承していく機能が求められる。
- 市民の避難場所や復旧・復興拠点等、防災機能を有するオープンスペースの役割が求められる。
- 地域の歴史・文化や自然環境等を最大限に活用し、地域への愛着心を醸成する公園が求められる。

②植物園

- 自然とのふれあいによる多様な環境学習や自然体験を通じた知的好奇心、探究心を刺激する場とし

て、生物多様性への理解を深める場としての役割が求められる。

- 自然環境や生物多様性の重要性や自然環境の危機的状況などを広く周知するため、地域セミナーなどを通じて、多くの人々へ植物や自然環境の魅力を広く発信することが求められる。

-4. SWOT 分析

	プラス要因	マイナス要因
内部環境	<ul style="list-style-type: none"> ①市民の憩いの場としての定着性、認知度が高い ②わんぱく広場、こども遊具の充実 ③川口市内唯一のアイススケートリンク ④四季折々の多種多様な花木 ⑤グリーンセンターのシンボルの一つにもなっている三二鉄道 ⑥通年のイベント開催 強み 	<ul style="list-style-type: none"> ①施設の老朽化、園内の地盤沈下 ②若者世代の取り込み不足 ③最寄駅からの距離の懸念 ④駐車場の不足、場所 ⑤見せるための知識・技術の不足 <p style="text-align: center;">弱み</p>
外部環境	<ul style="list-style-type: none"> ①都心からのアクセスの良さ ②川口 JCT からのアクセスの良さ ③グリーンセンターの周辺に点在する緑化振興施設の充実 ④イイナパーク川口開園による首都圏からの来園者の取り込み Opportunity ⑤都市公園法改正等、国家施策としての都市公園充実に向けての取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ①将来的な川口市人口の減少及び高齢者比率の増加、若者子育て世代の減少 ②イイナパーク川口と施設内容の類似 ③周辺の緑化振興施設への来園者の分散化 <p style="text-align: center;">Treat</p> <p style="text-align: center;">脅威</p>

【point】

- グリーンセンターは様々な役割を担った複合活動拠点である。
- イイナパーク川口をはじめ、様々な機能を有した関連施設との連携を図り、回遊性を高め、市の緑の基本計画を促進することによって、川口市の公園価値の向上が期待される。
- 役割、立ち位置を明確にしながら、計画的に解決、整備に向かっていくには、グリーンセンターのパークマネジメントを確立し、新たな具体的事業案へ反映していくことが重要である。

2. 計画地の現状と課題

5. 計画地の現況特性



3. 目標とする将来像

-1. 上位関連計画による将来像

①第5次川口市総合計画（平成28年4月策定）

「産業や歴史を大切にしたい地域の魅力と誇りを 育むまち」

■都市農業の振興

植木、花き園芸の啓発及びイベント等を実施し、緑化産業の振興を図る。（グリーンセンター）

■主な取組み

- ・ブランド力を強調し都市農業の振興、市民農園や観光農園等の支援、都市農地保全を図る。
- ・グリーンセンターなどの観光資源をPRし、人々の交流と賑わいを創出する。

②川口市都市計画基本方針（平成29年3月策定）

■レクリエーション・産業の拠点：市内の集客施設を「レクリエーション・産業拠点」とし、うるおいとやすらぎある環境の中でスポーツや散歩などの余暇活動や、植木等の本市特有の産業の魅力を感じることでできる場の形成を図る。

■自然環境ネットワーク（緑のネットワーク）：グリーンセンター～イナパーク～川口緑化センターなどの各拠点を結ぶ回遊エリアについては「植木の里・安行」ブランドの振興や都市農業の活性化など、緑化産業の魅力を感じることでできる「緑のネットワーク」の構築を図る。

③第2次川口市緑の基本計画（平成31年4月策定）

■緑やレクリエーションの拠点：広域圏のレクリエーション活動の場として、計画的な整備により老朽化への対応や更なる魅力付けを実施

■防災の拠点（広域避難場所）：日常は緑環境の提供、レクリエーション等への活用の方、災害時は、避難者の受け入れや大規模な物資の集積が必要となることから、オープンスペースを確保

■緑の普及・啓発に向けた機会の提供：栽培等の研修会を開催やイベントを通じて植木を中心とした花き等をPRし、緑化産業の振興を図る（以上、川口市立グリーンセンターの位置づけ）

④川口市農業基本計画（平成30年3月）

「伝統ある元気な農業が市民の誇りとして50年後もしっかりと息づいた「農が誇れるまち」

■伝統的な技術や品種の継承：受け継がれてきた緑化技術を活かし、生産技術の向上や品種の保存・育成を行い、総合的な宣伝・普及を図る

■市民・学校との連携：本施設を利用した植物園の管理運営等の実習により、知識を高める

■施設・知財の有効活用：仕立て技術等の知財や関連施設機能を活用し、情報を収集・発信

⑤川口市地域防災計画（平成26年3月改定／平成31年3月まで部分修正）

広域防災拠点（グリーンセンター）：応援部隊の活動拠点

⑥川口市立グリーンセンター将来構想（案）（平成27年3月策定）

・地域で暮らす市民や訪れる人にとって、より身近な“庭”として、共に成長していく植物園

・40年以上の歳月を経て成長した緑を生活の一部のように感じられる場所

■来て観て楽しい緑の空間！

豊かな緑と園内を彩る草花で出向かえ、植物の魅力を存分に感じ、植物への関心が高まる植物園

■ドキドキ、ワクワクの体験！体感！

環境教育や食育・体験を通じた交流などを促進し、自然の魅力を実感・体感できる環境づくりと、“わんぱく広場”を充実し、全ての来園者にドキドキとワクワクを感じてもらえる空間

■やすらぎの提供と地域文化の発信！

都市部からの来園者に対し心と体がやすらげる緑空間の提供とともに、地域で江戸時代から続く植木や苗木の栽培・造園技術を活かし、都会のオアシスとして非日常的な癒し空間を演出

-2. 目標とする事業イメージ

【ビジョンの明確化】

植物園の定義

観賞を通じて植物に対する知識を高め、自然に親しむ心を養うために、主として多数の植物を収集・育成・保存し併せて学術研究等に資する。（日本植物園協会）

これまでのグリーンセンターの役割

農業の振興を図るとともに、市民の憩いの場所及びレクリエーション施設を提供して、心身の健康増進に資し、併せて青少年の自然科学知識、教養の向上に寄与することを目的とする。

これまでの役割

新たなグリーンセンター

植物のおもしろさに「**であう**」きっかけをつくり、観賞を通じて植物知識を「**まなぶ**」だけでなく、植物と共に「**あそび**」、自然との「**ふれあい**」の場を作る。また公園的機能を活かし「**いどい**」の場を提供する複合的な植物体験の空間を創出する。また様々な先端技術等も活用し、植物の魅力伝える発信の場を作り上げる。さらには防災拠点としての機能を備えた地域の重要な役割も担う。

これからの役割

【ターゲットの明確化】

メインターゲットは子育て世代

市内在住の子連れ家族の利用率が高い。川口市人口推移予測では、子連れ世代の減少を想定

子育て世代のニーズを満たすことで、定住化を促進



持続的サイクルを生み出す

子育て世代に向けた魅力ある空間の提供

共に訪れる**幼児世代**の獲得

子育て世代が成長し、**親（シニア世代）**は慣れ親しんだ空間として、**子ども世代**には安心して遊べる空間を提供

成長した子どもたちは、**新たな子育て世代**となって、再びグリーンセンターに再訪



【完成時の目標来園者数】

100万人

3. 目標とする将来像

-3.ゾーニング及び動線計画(案)

